

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガクコウホクシン ナガハラケン 学校法人 永原学園								
フリガナ大学の名称	ニシキユウダク 西九州大学大学院（Graduate School of Nishikyushu University）								
大学本部の位置	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9								
大学の目的	大学院は、西九州大学の建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会に貢献し、文化の進展と健康・福祉の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	看護学専攻（修士課程）は、地域社会で生活する人々を支援する専門性の高い看護実践能力をもった指導的看護実践者及び教育研究に必要な基礎的能力を有し、研究能力を基盤とした看護教育者を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 看護学部看護学科  14条特例の実施
	生活支援科学研究科 〔Graduate school of Human Care 看護学専攻（修士課程） 〔Master's Course in Nursing〕  計	年	人	年次人	人	修士 （看護学） 【Master of Nursing】	令和4年4月 第1年次	小城キャンパス 佐賀県小城市小城町 176番地27	
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	生活支援科学研究科栄養学専攻（博士課程）（2）（令和3年3月課程変更認可申請） 令和4年4月名称変更予定 生活支援科学研究科健康栄養学専攻（修士課程）→同研究科栄養学専攻（博士前期課程）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	生活支援科学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	生活支援科学研究科 看護学専攻 （修士課程）	7人 (7)	3人 (3)	4人 (4)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	13人 (13)
分	生活支援科学研究科 栄養学専攻 （博士後期課程）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	
組	計		17 (17)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	15 (15)
組織	既設	生活支援科学研究科 栄養学専攻 （博士前期課程）	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	6 (6)
	分	生活支援科学研究科 臨床心理学専攻 （修士課程）	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)
概要	既設	生活支援科学研究科 リハビリテーション学専攻 （修士課程）	8 (8)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	6 (6)
	分	生活支援科学研究科 子ども学専攻 （修士課程）	8 (8)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	14 (14)
要	既設	生活支援科学研究科 地域生活支援学専攻 （博士前期課程）	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	12 (12)
要	分	生活支援科学研究科 地域生活支援学専攻 （博士後期課程）	9 (9)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
要	計		46 (46)	17 (17)	5 (5)	0 (0)	68 (68)	0 (0)	55 (55)
合計			63 (63)	23 (23)	9 (9)	0 (0)	95 (95)	0 (0)	70 (70)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		52 人 (52)	0 人 (0)	52 人 (52)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		54 (54)	0 (0)	54 (54)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	西九州大学短期大学部（必要面積3,800㎡）と共用 借用面積： 3,971.07㎡ 借用期間：30年				
	校 舎 敷 地	39,878 ㎡	14,833 ㎡	0 ㎡	54,711 ㎡					
	運 動 場 用 地	18,813 ㎡	8,264 ㎡	0 ㎡	27,077 ㎡					
	小 計	58,691 ㎡	23,097 ㎡	0 ㎡	81,788 ㎡					
	そ の 他	63,849 ㎡	4,366 ㎡	0 ㎡	68,215 ㎡					
	合 計	122,540 ㎡	27,463 ㎡	0 ㎡	150,003 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	西九州大学短期大学部（必要面積3,900㎡）と共用				
		29,227 ㎡ ( 29,227 ㎡)	19,392 ㎡ ( 19,392 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	48,619 ㎡ ( 48,619 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	8 室	11 室	9 室	1 室 (補助職員 1人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		生活支援科学研究科看護学専攻（修士課程）		14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 (機械器具、標本は 除く)		
		生活支援科学研究科 看護学専攻	14,655 [651] (14,655 [651])	78 [1] (78 [1])	5 [1] (5 [1])	1,115 (1,115)	18,370 (18,370)		87 (87)	
		計	14,655 [651] (14,655 [651])	78 [1] (78 [1])	5 [1] (5 [1])	1,115 (1,115)	18,370 (18,370)		87 (87)	
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	1,960 ㎡		283 席		204,000 冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	3,267 ㎡		トレーニングセンター 242㎡	テニスコート 2面	多目的コート 1面	弓道場 89㎡				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には、 データベースに関する費用を含む
		教員1人当り研究費等		80千円	80千円					
		共同研究費等		360千円	360千円					
		図書購入費	2,650千円	1,200千円	1,200千円					
	設備購入費	200千円	100千円	100千円						
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		810千円	610千円	一千円	一千円	一千円	一千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	健康栄養学部 健康栄養学科	4	120	—	480	学士 (健康栄養学)	0.87 0.87	平成 26年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市 神埼町尾崎 4490番地9	
	健康福祉学部 社会福祉学科	4	80	3年次 10	340	学士 (社会福祉学)	0.75 0.62	昭和 49年度		
	スポーツ健康福祉学科	4	50	—	200	学士 (スポーツ健康福祉学)	0.95	平成 26年度		
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	0.85 0.85 0.94	平成 19年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.75	平成 19年度		
	子ども学部 子ども学科	4	80	3年次 10	340	学士 (子ども学)	1.14 1.14	平成 21年度		
	心理カウンセリング学科	4	40	—	160	学士 (臨床心理学)	1.15	平成 26年度	小城キャンパス 佐賀県小城市小城 町176番地27	
	看護学部 看護学科	4	90	—	360	学士 (看護学)	0.99 0.99	平成 30年度		
	大学院 生活支援科学研究科 健康栄養学専攻	2	2	—	4	修士 (健康栄養学)	0.50	平成 26年度		
	地域生活支援学専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士 (生活支援学)	0.50	平成 27年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市神埼 町尾崎4490番地9	
	地域生活支援学専攻 博士後期課程	3	3	—	9	博士 (生活支援学)	1.10	平成 27年度		
	リハビリテーション学専攻	2	3	—	6	修士 (リハビリテーション学)	1.50	平成 26年度		
	臨床心理学専攻	2	5	—	10	修士 (臨床心理学)	1.30	平成 26年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	子ども学専攻	2	3	—	6	修士 (子ども学)	0.66	平成 27年度		
	既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学短期大学部							所在地
		学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	地域生活支援学科	2	100	—	200	短期大学士 (地域生活支援学)	0.71	平成29 年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	幼児保育学科	2	90	—	180	短期大学士 (保育学)	0.98	昭和 40年度		
附属施設の概要	該当なし									

## 教育課程等の概要

(生活支援科学研究科 看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	生活支援科学特論	1前	2			○			1					兼6	オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	兼6	—
基礎分野	看護学研究Ⅰ	1前	2			○			1	1					オムニバス
	看護学研究Ⅱ	1後	2			○			1	1					オムニバス
	理論看護学	1前		2		○			2						オムニバス
	医療倫理学	1後		2		○			2					兼1	オムニバス
	看護教育学特論	1前		2		○			3					兼1	オムニバス
	看護教育方法特論	1後		2		○			4						オムニバス
	家族看護援助論	2前		2		○			2		1				オムニバス
	病態生理学特論	1前		2		○								兼3	オムニバス
	リハビリテーション特論	1前		2		○								兼1	
	臨床薬理学特論	1後		2		○								兼1	
	保健医療福祉連携特論	2前		2		○			2		1				兼1
小計(11科目)	—	4	18	0	—			6	2	2	0	0	兼7	—	
展開分野	生活支援看護学領域	地域在宅看護学特論	1前		2		○		1		1				オムニバス
		地域在宅看護学援助特論	1後		2		○		1		1				オムニバス
		地域在宅看護学演習	2前		4			○		1		1			共同
		老年看護学特論	1前		2		○		1		1				共同
		老年看護学援助特論	1後		2		○		1		1				共同
		老年看護学演習	2前		4			○		1		1			共同
	小計(6科目)	—	0	16	0	—			2	0	2	0	0	0	—
実践看護学領域	基盤看護学特論	1前		2		○			3	1					オムニバス
	基盤看護学援助特論	1後		2		○			3	1					オムニバス
	基盤看護学演習	2前		4			○		3	1					共同
	療養支援看護学特論	1前		2		○			1	2	1				オムニバス
	療養支援看護学援助特論	1後		2		○			1	2	1				オムニバス
	療養支援看護学演習	2前		4			○		1	2	1				共同
小計(6科目)	—	0	16	0	—			4	3	1	0	0	0	—	
研究演習	特別研究	1~2通	8				○		7	3	3				
	小計(1科目)	—	8	0	0	—			7	3	3	0	0	0	—
合計(25科目)		—	14	50	0	—			7	3	4	0	0	兼13	—
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は当科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
<b>【修了要件】</b> 本大学院に2年以上在籍し、所定の授業科目30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格する。  <b>【履修方法】</b> 必修科目14単位、基礎分野の選択科目より6単位以上、展開分野の生活支援看護学領域(地域在宅看護学、老年看護学)及び実践看護学領域(基盤看護学、療養支援看護学)の選択科目のうち、自ら専攻する看護学特論、看護学援助特論、看護学演習の3科目8単位、この選択した科目以外のいずれかの看護学特論又は看護学援助特論から2単位以上、合計10単位以上修得し、合計30単位以上を修得する。								1学年の学期区分		2学期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(生活支援科学研究科 看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	生活支援科学 特論	<p>(概要)</p> <p>人びとの生活に対する支援を適切に行うには、生活の機能や領域、それらを研究、支援の対象とする諸科学のありようについて関心を持ち、学修する姿勢が必要とされる。本講義は、研究科における研究教育の基本、前提を学修し、健康栄養学、臨床心理学、リハビリテーション学、子ども学、地域生活支援学、看護学といった各専攻領域の議論に入る準備を行うことを目的とする。地域における人びとの生活の機能や領域、生活支援についての理論や方策、各専攻領域における支援内容について理解を深め、生活支援科学がめざすものについて説明できるようになること、生活支援を学ぶために不可欠な研究倫理を理解することを狙いとする。各専攻の教員からの講義の後に、講義担当者全員を交え、受講院生からレポートの発表と、地域における生活支援にむけた総合的視点から議論を行い、生活支援の方策について考察を深め、学修成果を確実なものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回：単独講義14回、担当者全員での講義1回)</p> <p>(17 横尾美智代/単独講義2回、担当者全員での講義1回)</p> <p>生活支援科学の視点と概要について講じる。人々が地域社会のなかで、より健康的で自立した生活を確保し、維持することをめざす支援のあり方について、多角的な視野から考察することを促す。また、研究倫理についての理解を深めるための講義を行うとともに、具体的な研究計画に即して、倫理的な配慮の必要性を考察する。</p> <p>(15 坂田 周一/単独講義2回、担当者全員での講義1回)</p> <p>生活支援における社会福祉のニーズおよび理念と目標、生活支援における社会福祉の位置と役割を講じる。生活支援を社会福祉からのアプローチとして行う場合の基本的な考え方と、支援の方法論について触れる。</p> <p>(16 安田みどり/単独講義2回、担当者全員での講義1回)</p> <p>生活支援における食・栄養の位置と役割、人間栄養学と生活の視点からみた食・栄養の重要性を講じる。食・栄養が健康支援と密接にかかわっていること、生活において食が重要な要素を占めていることへの理解を深める。</p>	オムニバス 方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	生活支援科学特論	<p>(19 田中 麻里/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 生活支援における子どものニーズと発達、子育て家庭における家族関係と子どもの育ちのあり方を講じる。現代の子どもを取り巻く環境が、少子化、家族の変容、情報化やデジタル化の進展により急速に変化している現実を踏まえ、子ども学の見点から子どもと家族支援のあり方を考える。</p> <p>(18 大川 裕行/単独講義2回、担当者全員での講義1回) リハビリテーションの立場から見た人の健康、生活とその障害、生活支援を目指したリハビリテーションについて講じる。リハビリテーションが目指すものは、地域におけるノーマライゼーションであり、そのためのリハビリテーションの支援のあり方を考察する。</p> <p>(6 黒田 研二/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 地域包括ケアシステムの構築の条件、地域包括ケアにおける多職種連携について講じる。とくに看護学の立場から、地域における多機関、多職種連携のあり方や、連携を通じて目指すものが地域共生社会の実現であることを考察する。</p> <p>(20 太田 秀樹/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 生活支援におけるメンタルヘルスの重要性、ライフサイクルから見たメンタルヘルスの課題と援助について講じる。臨床心理学の見点から、メンタルヘルスについて具体的事例を交えて理解を促す。</p> <p>(担当者全員での講義1回) 院生自身が、それまで各分野から行われた授業の内容を踏まえて、自分の選択する専攻分野を基軸に多面的、学際的なアプローチを行うことの意義、その必要性について考察したレポートをまとめ、プレゼンテーションを行う。その内容をもとに、参加者間でのディスカッションと教員からの助言、指導を行う。</p>	オムニバス方式
基礎分野	看護学研究Ⅰ	<p>(概要) 看護研究の基本的な研究プロセスと方法論を学修し、研究活動を行うにあたっての基礎的な研究能力を養う。また、看護学領域における質的研究方法論について学修する。看護研究の意義と動向、看護研究のプロセス、看護研究の倫理的配慮、系統的文献検索、論文のクリティーク(質的研究・量的研究)、研究計画書の作成、論文の書き方、学会発表の方法などの研究の基礎能力の向上を図る。また、質的研究では、特徴的な質的研究論文のクリティークを通して、質的研究の方法と論文のまとめ方について探求する</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(7 正野 逸子/10回) 看護研究の意義と動向、看護研究のプロセス、看護研究の倫理的配慮、系統的文献検索、論文のクリティーク、研究計画書の作成、論文の書き方と発表の仕方について、理解を深める</p> <p>(12 藤田 史恵/5回) 質的研究とは、研究テーマとリサーチアクション、研究倫理とインタビュー、質的研究の方法(データ収集と分析方法)、質的研究の実際を通して具体的なプロセスについて理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	看護学研究Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>前期に開講する看護研究Ⅰ（看護研究に関する総論、質的研究）を受けて、本授業では量的研究とくに疫学研究の方法、および質的研究と量的研究を組み合わせる混合研究法について学修する。疫学研究の方法では、横断的研究、生態学的研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究といった研究方法とデータの解析方法について学修する。質的研究と量的研究を組み合わせるそれぞれの特徴を補完しあう混合研究法については、看護学研究にける研究動向、組み合わせ方の類型、研究のまとめ方について学修する。また具体的な研究事例を取り上げて、研究方法論の活かし方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 黒田 研二/8回)</p> <p>看護学における疫学研究の重要性と研究方法論について、および疫学研究を遂行する上で必要となると統計学的考え方について理論的理解を深める。また量的研究と質的研究を組み合わせる、両者の特徴を活かす混合研究法を学ぶ。</p> <p>(11 馬場 才悟/7回)</p> <p>慢性疾患をもつ患者への患者教育および看護に関する研究の例を示し、研究で用いられる統計学的手法を説明するとともに、その理論的基礎を学修する。</p>	オムニバス方式
	理論看護学	<p>(概要)</p> <p>看護理論の変遷と生成過程を日米の時代背景と共に学び、現存する主要な看護理論について基盤となっている理論から発展して看護理論が生成され、臨床事例に適用されて看護理論は洗練され、モデル化されてきたことを理解する。また、看護実践のどのような場面に看護理論を適用できるか、看護基礎教育でどのような看護理論をどのような教育方法で教えられているか、看護現任教育ではどのような看護理論を用いて教育されているかなど、それらの疑問に対応できるように、幅広い視点から看護理論を概観し、実践の科学としての看護学の理解を深める</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 岡崎 美智子/8回)</p> <p>看護理論の変遷と生成過程を日米の時代背景と共に理解し、現存する主要な看護理論について理解を深める。さらに、看護理論の基盤となっている基礎理論に言及し、主要な基礎理論を理解し、看護実践に看護理論を活用し、経験知の裏づけを考察する。</p> <p>(2 中島 洋子/7回)</p> <p>看護理論は、看護実践にどのように活用されているか。あるいは、看護基礎教育でどのように教えられているか。看護現任教育でどのように応用されているか。などの疑問に対応できるように、幅広い視点から看護理論を理解し、実践の科学としての学びを深める。さらに、将来において各自の看護観を理論化できるきっかけ創りとする。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医療倫理学	<p>(概要) 時代が進むにつれ増えてきている医療倫理・看護倫理・研究倫理に関する課題の歴史の変遷と基本的概念及び解決の方法論について学修する。各々の分野の現場で生じる倫理的課題を明確に把握し、その課題解決のための道筋(考え方と方法)についてディカッション等を通じて検討を行い、解決のためのアプローチ的態度や方法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 北原 悦子/6回) 倫理・道徳・法の相違点と関係を述べ、医療・看護をめぐる倫理的側面の経緯と課題を学修する。患者の権利とインフォームドコンセント、守秘義務と個人情報保護、本人の意思決定と代理意思決定、生殖をめぐる諸課題(人工妊娠中絶、生殖補助技術、出生前診断)、死をめぐる諸課題(尊厳死・安楽死、脳死移植)、遺伝子診断・治療について概説し、ディスカッションを通して考察する。</p> <p>(1 岡崎 美智子/5回) 専門職である看護職がどのような倫理規定を持ち、これをどのように1人ひとりの内的規範として活用すべきかを学修する。我が国の歴史的な看護倫理観の変遷、ICN「看護師の倫理綱領」、日本看護協会の「看護者の倫理綱領」を深く検討し、考察する。</p> <p>(27 満岡 聡/4回) 臨床家の立場から、在宅医療、在宅緩和ケア、尊厳死・安楽死、「レット・ミー・デサイド=わたしの選択」(治療の事前指定書)の現状と課題を教授し、ディスカッションを行い知見を深める。</p>	オムニバス方式
基礎分野	看護教育学特論	<p>(概要) 看護教育学を理解するための基盤となる教育学について概説し、成人教育(アンドロゴジー)の特徴を踏まえ、看護の中の教育的機能について理解を深める。看護専門職の教育について保健師助産師看護師学校養成所指定規則を理解し、看護教育課程の法的理解をするとともに、看護教育制度の変遷を学ぶ。①看護教育における看護基礎教育について、コアカリキュラムと看護技術、臨地実習指導、学生指導等の理解を深める。②看護教育の看護継続教育について学び、主として病院における看護現任教育、厚生労働省・文部科学省・日本看護協会等の主催する講習会等の教育プログラムの立案および展開方法・評価について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (1 岡崎 美智子/6回) 看護教育制度の変遷を学び、現代の看護教育課程の変遷を理解し教育課程における課題を明らかにする。大人の学びを開く教育方法について理解し、教育実践の中から研究課題を見出し、課題解決に向けて文献に裏づけられた論究をする。</p> <p>(4 鷹居 樹八子/4回) 看護基礎教育において看護学の教育について探求するために、看護学概論の教育内容の精選や教育方法、基礎看護技術教育の概念と教育方法、臨地実習の位置づけと内容や指導方法、ICT教育の導入にかかわる課題について文献・ディスカッション等に基づき学修を深め、教育課程と関連させる。また基盤看護学の授業・演習・臨地実習の展開を構築するとともにその指導方法、評価方法についても論究する。</p> <p>(5 北原 悦子/3回) 生涯教育支援としての看護継続教育及び卒後教育の現状と今日的課題を概観し学修を深める。看護職の継続教育を取り巻く変化、看護職の対象別(新人看護職員、ジェネラリスト、スペシャリスト、管理者、教育者・研究者)の育成(その範囲と基準)について検討し、課題解決に向けた取り組みを考察する</p> <p>(21 菅原 正志/2回) 教育学の基礎理論を、教育原理、教育方法について教授し、看護教育方法を思考するための基礎的理解を深める</p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	看護教育方法特論	<p>(概要)</p> <p>看護教育方法の理論や看護教育課程を理解するとともに、経験した看護教育における教育方法の課題を明らかにする。その課題解決のために教育理念、3ポリシー、教育課程評価の視点や指定規則、大学設置基準との関連から看護教育課程を理解し、教育目的・目標、教育内容の精選、構造化をする能力を養う。看護教育における講義・演習・実習の重要性を認識し、授業設計と評価の基礎的な知識と理論を用いて理解を深める。さらに、大学、臨地実習でのフィールドワークを通して、学習指導案を立案し教育実践能力を養うとともに、看護の学びをはぐくむための指導のあり方を検討し、看護教育者としての資質、能力、看護教育観を培い、教育方法の課題について検討する。</p> <p>(1 岡崎美智子/2回) 看護教育学特論の学修を通して、教育方法等の課題を持ち、看護教育におけるアクティブラーニングとしてのPBLを概説する。</p> <p>(3 北原悦子/3回) 学生が主体的に学ぶことができる効果的な教育方法(反転学習-事前学習課題、協同学習、体験学習・シミュレーション教育、ディベート・討議法、PBL法(Problem Based Learning等)の特徴を理解し、実践場面(教室内学習・臨地実習)での活用を体験し、導入を立案できる。</p> <p>(2 鷹居機八子/5回) 看護教育におけるシミュレーション教育、ICT教育の実際、活用における留意点などを検討し、理解を深めるとともに、フィールドワークを通して授業/研修設計を検討する。学内・臨地実習指導における自己の課題やフィールドワークでの気づきを明らかにしたうえで、授業設計の学習を活用し、学生のレディネス、実習科目の目的、内容等を検討し、評価も関連させて実習の学習指導案を作成することができる。</p> <p>(4 正野逸子/5回) 授業設計を計画し、フィールドワークを通して講義・演習を振り返り、他者評価・自己評価をする。</p>	オムニバス方式
基礎分野	家族看護援助論	<p>(概要)</p> <p>看護学における家族を理解し、家族看護援助を実践するための概念や諸理論を基に、家族看護援助のあり方を探求する。家族本来のセルフケア機能を高め、主体的に問題解決できるように、支持的・予防的・治療的に支援する家族看護学の理念や理論、方法を学修する。また、様々な健康レベル、発達段階、状況の家族の事例を取り上げ、理論を活用し、アセスメントと介入を分析し、家族看護援助のあり方を考察する</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(2 中島 洋子/4回)</p> <p>家族看護の発展と変遷、家族を取り巻く社会的変化と課題について理解を深め、認知症高齢者の家族、がん患者の家族家族の事例を分析し、家族看護援助方法について考察する。</p> <p>(7 正野 逸子/7回)</p> <p>家族を理解するための基礎理論、家族看護援助理論、カルガリー家族看護アセスメントモデル・介入モデルについて理解を深め、カルガリー家族看護モデルを用いて慢性疾患を抱える家族家族を事例を分析し、家族看護援助方法について考察する。</p> <p>(14 平原 直子/4回)</p> <p>エンパワーメントモデルについて理解を深め、エンパワーメントモデル用いたクリティカルケアの必要な患者の家族、重度障害を持つ子どもを抱える家族の事例を分析し、家族看護援助方法について考察する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	病態生理学特論	<p>(概要) 病態生理学は病的な状態の身体におきている異常な変化を研究し、疾病の原因や成り立ち・進展など、疾病の背後にある問題を明らかにする学問である。このような生理学の知識は、疾病の理解だけではなく、患者への援助を行う際の根拠となるため、看護師が病態生理学を理解し、その知識を持つことは重要である。ここでは臨床現場でよくみられる主要な臓器ごとの機能障害のしくみ（症状の発生機序）、その障害をきたす疾患などについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22 草野 洋介/5回) 臨床医学者としての立場から血液、循環、呼吸、腎・泌尿器、脳神経、感覚器の病態生理について講じる。</p> <p>(23 安部 恵代/5回) 臨床医学者としての立場から消化・吸収、内分泌・代謝、生殖、筋・骨格の病態生理について講じる。</p> <p>(25 向井 常博/5回) 基礎医学者の立場から、病態生理学を学ぶための基礎知識と総論について講じる。</p>	オムニバス方式
	リハビリテーション特論	<p>(概要) リハビリテーションとは、生活の基本である活動の賦活化を図る過程である。近年は、疾病等により低下した身体的・精神的機能の回復だけでなく、健康増進や介護予防を目的としたリハビリテーションが注目されている。そこで「機能回復・障害の克服・活動の賦活」をテーマに講義を展開する。生き生きとした社会生活をサポートするために、学術的に裏付けされたリハビリテーション医療を学ぶことを目標とする。</p>	
	臨床薬理学特論	<p>(概要) 医薬品は入院や在宅療養の患者のほとんどに投与されており、患者への与薬は看護師の重要な役割の一つである。医療事故なく安全に投与し、しかも十分な治療効果を得るには、薬物の作用機序や薬理作用、副作用などの基礎的な知識が必要であり、また専門分野の看護師には更に高度な臨床薬理学の知識が求められる。そこで、最新の医薬品情報のほか、各疾病の薬物療法上の注意ポイント、チーム医療や地域医療連携における薬剤師との連携・協働などについて講義する。</p>	
基礎分野	保健医療福祉連携特論	<p>(概要) 地域包括ケアシステムあるいは地域包括支援体制といった概念のもとに、地域において保健・医療・福祉の連携・統合の試みが進められている。地域レベルにおけるこれらを要素とするネットワークを形成するための理念、方法、留意事項について学ぶとともに、個別の支援レベルにおける関係職種の連携の考え方と方法について学ぶ。また、地域レベルのネットワーク形成と個別支援における多職種連携は相互に影響しあっており、両者を媒介する機能が必要であることを学ぶ。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(2 中島 洋子/4回) 高齢者看護の立場から、医療・看護・介護の連携の重要性やその方法について学び、生活支援の視点が連携の基礎にあることを学修する。</p> <p>(6 黒田 研二/4回) 地域包括ケアシステム・地域包括支援体制について理解を深めるとともに、地域において保健医療福祉が連携して進める支援の構築方法を学修する。</p> <p>(9 池田 佐知子/3回) 公衆衛生看護において、地域住民全体を対象とする事業と、個々の人々を対象とする支援を組み合わせて行う展開方法を学修する。</p> <p>(27 満岡 聡/4回) 地域で診療にあたる医師の立場から講じ、包括的ケアを提供するための多職種連携の重要性、その具体的方法について学修する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開分野	生活支援看護学領域 地域在宅看護学特論	(概要) 地域在宅看護学の理念と枠組みを理解し、地域における看護の対象を多角的に捉え、地域における集団と個人の健康課題を明確化する方法やソーシャルサポート、パートナーシップを基盤とする国内外の理論を学修する。また、地域で暮らす人々の健康の保持増進および健康課題解決に向けたセルフケア能力や地域力を的確に判断し、それをエンパワーメントできる方法を探求する。  (オムニバス方式/15回)  (7 正野 逸子/9回) 地域在宅看護学の基本的理念、在宅看護学の理念と枠組み、対象を多角的に捉える理論と方法について学修し、課題解決に向けた方法を探求する。  (9 池田 佐知子/6回) 地域看護学の理念と枠組み、対象を多角的に捉える理論と方法について学修し、課題解決に向けた方法を探求する	オムニバス方式
	生活支援看護学領域 地域在宅看護学援助特論	(概要) 地域で暮らす乳幼児から高齢者までの幅広い人々の人生の始まりから最期まで、尊厳をもって自分らしく生きることができるよう支援するという視点で求められる課題を明らかにする方法と支援方法を学修する。小児、母性、成人、老年の対象の特徴的な健康課題と、それらを解決するための方法について、個人と家族の発達課題を踏まえた支援と、地域包括ケアシステムを支える医療・保健・福祉・教育等の専門職と有機的に連携・協働するシステム構築について考察する  (オムニバス方式/15回)  (7 正野 逸子/9回) 地域在宅看護学の理念と枠組みを国内外の理論を通して学修し、在宅看護学の観点から、対象を多角的に捉え、個人・家族からのアプローチ理論と支援方法、さらに課題解決の方法を探求する。  (9 池田 佐知子/6回) 公衆衛生看護学の観点から、対象を多角的に捉え、集団・地域からのアプローチ理論と支援方法、さらに課題解決の方法を探求する。	オムニバス方式
展開分野	生活支援看護学領域 地域在宅看護学演習	(概要) 地域在宅看護学分野の教育方法の現状と研究課題を関連文献を基に、今後の地域在宅看護学の教育と研究のあり方について論考する。また、地域在宅看護学分野における関連分野のフィールドワークを行い、それらの体験を踏まえ、自己の研究課題を検討し、研究の方向性を明らかにする。さらに教育と研究に発展について考察する。	共同
	生活支援看護学領域 老年看護学特論	(概要) 超高齢社会における老年看護の課題を認識し、高齢者および家族に対する看護の基盤となる理論や概念を学修する。また、高齢者の健康生活を支える多様な制度や環境について理解を深め、老年看護実践における倫理的課題や健康課題およびその背景・要因を明らかにし、その解決方法について検討し考察する。	共同
	生活支援看護学領域 老年看護学援助特論	(概要) 地域で生活する高齢者特有かつ複雑な健康問題を有する高齢者および家族に対する生活機能・生活環境に関する包括的アセスメントと支援方法を学修する。また、地域包括ケアシステムの中で注目されている認知症の人と家族への支援、高齢者と家族を支えるサポートシステムにおける総合的な判断と効果的な支援の展開方法・意思決定支援について探求する。	共同
	生活支援看護学領域 老年看護学演習	(概要) 老年看護学における最近の実践及び研究の動向について、研究論文等の文献検索・論文講読を行い、老年看護学領域の研究分野を認識し、現状における課題を明らかにする。また、現状の分析から自己の研究課題を検討し、研究の方向性を明らかにする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開分野	実践看護学領域 基盤看護学特論	<p>(概要) 基盤看護学は、基本的なケアリングの概念や理論を学修する。さらに、多様な看護実践の経験を分析し、それらの結果を学んだ理論を適用させて考察し、看護の本質に言及する。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(1 岡崎 美智子/5回) 基盤看護学とは何を意味するかの疑問を解決するために、その範囲の知識と技術を系統的に学修する。さらに、基盤看護学の核心となるケアの本質について論究すると共に、看護ケアリングの中核となる触れる手 touch/touching について概念と歴史的変遷を概説し、日米の研究について文献検討する。文献検討しながら、院生の看護実践および看護教育実践と重ね合わせケアリング経験を振り返り、研究課題を見出す。</p> <p>(4 鷹居 樹八子/4回) あらゆる健康レベルにあるすべての人々へ看護を提供するための看護の基盤とは何かを探求するために、ケアリングや看護技術の概念、看護技術の適用方法、指導、看護実践の概念や教育方法の視点から、多様な看護実践を可視化し、ケアリングやそのほかの理論を用いて看護実践に含まれる看護の本質や看護実践の概念、看護技術の概念や教材の考え方を考察する。</p> <p>(5 北原 悦子/4回) 看護基礎教育における看護学生の職業的発達の支援を目指し、対象の特徴を深く理解し、教育の原点となる文献を精読し、看護教育学の基礎的知識の理解を深める。それらの知識を活用・分析し、学生に対する教育の適切な展開方法（教育方法）を考察する。</p> <p>(8 小林 幸恵/2回) 国内外における「患者の権利 (The rights of the patient)」の変遷を知り、自らの看護実践における倫理 (Ethics of care) を踏まえて、国内の現状と課題について考察する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開分野 実践看護学領域	基盤看護学援助特論	<p>(概要) 看護実践の基盤となる基本的な概念を理解し、多様な看護実践の中で経験した看護技術等を分析し、その結果を研究的に追及するために文献検討を行う。加えて、看護実践における教育方法を理論を用いて考察する</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 岡崎 美智子/5回) コア・カリキュラムに関する文献検討を行い、看護学教育における看護技術の基本的概念をあきらかにする。興味関心のある看護技術を選び、基礎教育および継続教育における看護技術の教育方法を検討する。</p> <p>(4 鷹居 樹八子/4回) 看護の対象となるすべての人々と家族の健康を支援し、看護専門職として行う看護技術や看護実践の向上、専門性や教育方法を追求するために、看護技術の概念、教育方法、看護実践の概念や思考過程、教育方略について、看護場面や事例を用いて可視化する。対象者への支援について考えるために、看護技術・看護実践の概念、教材開発、看護実践や看護技術の適用における現状と課題を議論する。</p> <p>(5 北原 悦子/4回) 基盤看護学特論をベースにして、現状の看護卒後教育・継続教育を概観し、看護専門職としての組織運営を理解し、その中で特に院内教育・院内研修・看護学生の臨地実習指導など教育に関する役割を発揮していくために必要な知識・技術・態度を学修する。それらから自己及び組織の課題や実践目標を収斂化し、解決する方法を考察する。</p> <p>(8 小林 幸恵/2回) 自らの関心のある看護技術(または関連するテーマ)を一つ選択し、その看護技術におけるエビデンスの変遷を先行研究を用いて整理し、患者中心の看護 (Patient-centered nursing) の視点で現状と今後の課題について考察する。</p>	オムニバス方式
	基盤看護学演習	<p>(概要) 文献の講読および実践事例の検討、フィールドワークを通して、看護の本質、看護の実践等に関する研究の課題や方法、さらには、看護技術およびそれらの基礎教育に関する内容を取り上げる。看護実践の場における適用、教育方法などの課題とともに研究課題および研究方法について、また、看護基礎教育における技術教育の課題と教育方法を文献研究やフィールドワークを通して論究する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開分野	療養支援看護学特論  実践看護学領域	<p>(概要) 療養する人々とその家族の療養生活を理解し、支援するための概念・理論を検討し、実践と研究への適応を探究する。特にがん疾患や生活習慣病に代表される糖尿病、慢性閉塞性肺疾患等に罹患している人々、女性の妊孕性・不妊、周産期のメンタルヘルスから発症する産後うつ病・子育て期の虐待などの諸問題を持つ人々、子ども特有の健康問題をもつ人々に対しての看護活動に関する理論を論文を通して検討し、療養支援看護に関わる研究について探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 白田 久美子/6回) がん患者やその家族に対する看護の基盤となる理論や概念、モデルについての理解を深め、がん患者の療養生活のQuality of Lifeを維持向上できるための支援を学修する。また、がん患者の健康問題や課題及びその背景要因を文献検討やディスカッション、実践の中から理解を深め、解決方法等についても考察する。</p> <p>(11 馬場 才悟/3回) 生活習慣病に代表される糖尿病、慢性閉塞性肺疾患および全身性炎症性疾患に代表される関節リウマチといった慢性疾患をもつ患者とその家族の生活状況や療養法への理解を深めるアセスメントに必要な理論を学術的論文の中から検討し学修する。</p> <p>(7 森本眞寿代/3回) 母子の健康問題と母乳育児に関して、家族を多角的にとらえ、家族関係の再構築における支援の在り方を探索する。また女性の妊孕性・不妊、さらに周産期のメンタルヘルスにおける親子関係性からの諸問題(産後うつ・子育て期の虐待など)、新生児・乳児期の子どもを持つ母親およびその家族の適応過程における心身の健康問題について文献・及び実践活動から考察する。</p> <p>(12 藤田 史恵/3回) 子どもの成長・発達および子どもと家族を取り巻く環境との相互作用を理解するとともに、子ども特有の健康問題に関連する主要な理論を探究し、より質の高い看護ケアを実践するための支援を多角的な観点で検討し、考察する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践看護学領域 展開分野	療養支援看護学援助特論	<p>(概要)            様々な疾病や闘病生活に生じる多様な課題を持ち、療養生活を送る人々とその家族のQuality of Lifeの維持向上に向けた看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開を通して検討する。療養生活を送る上で、人々が必要とする健康の再構築するために体験する行動変容や、そのための教育方略、また急性期から回復期（リハビリテーション期）、慢性期、終末期などの闘病過程で療養生活を支援する看護実践及び看護職者の役割と活動について探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 白田 久美子/6回)            がん患者の急性期から回復期（リハビリテーション期）、慢性期、終末期とそれぞれ適応できる理論やモデルについての理解を深め、がん患者の療養生活の支援を文献検討、看護実践の中から検討する。患者の闘病過程で看護職者の役割と活動について考察する。</p> <p>(11 馬場 才悟/3回)            生活習慣病に代表される糖尿病、慢性閉塞性肺疾患および全身性炎症性疾患に代表される関節リウマチといった慢性疾患をもつ患者とその家族の生活状況や療養法への理解を深めるアセスメントに必要な理論を活用し、Quality of Life(QOL)の向上を目指した支援をするための専門的な看護援助を学術論文による文献検討をはじめ、看護実践の中から検討し修得する。</p> <p>(7 森本眞寿代/3回)            母子の健康問題と母乳育児に関して、家族を多角的にとらえ、家族関係の再構築における支援の在り方を探索する。また女性の妊孕性・不妊、さらに周産期のメンタルヘルスにおける親子関係性からの諸問題（産後うつ・子育て期の虐待など）、新生児・乳児期の子どもを持つ母親およびその家族の適応過程における心身の健康問題の支援について実践への道を探求する。</p> <p>(12 藤田 史恵/3回)            子どもの成長・発達および子どもと家族を取り巻く環境との相互作用を理解するとともに、子ども特有の健康問題に対してより質の高い看護ケアを実践するための支援を多角的な観点で検討し、健康問題を持つ子どもたちへの看護実践及び看護の役割について考察する。</p>	オムニバス方式
	療養支援看護学演習	<p>(概要)            療養生活を送る人々とその家族が経験する健康問題及び課題について、文献検索しクリティークを基に、明らかにし、その支援方法及び評価を行う。関心あるテーマを焦点づけ、プレゼンテーションと討議を通して研究課題を明確にする。さらにフィールドワーク等の実践活動を行い、対象者が抱える解決困難な問題、社会情勢なども含めた背景を関連する様々な理論や概念を用いながら深く思索し、研究の方向性や方法、研究倫理、データの解析方法等について討議し、研究計画へと発展できる能力を養う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究演習	特別研究	<p>(概要)          修士論文作成に向けた指導を行う。各自の研究テーマを設定し、研究活動を行い、研究課題の明確化、研究目的の設定、研究計画立案、研究倫理審査、データ収集、分析・解釈論文作成、発表が行えるように指導し、研究を実施する基礎的な能力を育成する。下記のテーマから一つを履修する。</p> <p>(1 岡崎 美智子)          基盤看護学分野の研究課題は、看護実践及び教育実践の中から気がかりな現象に関する研究テーマを取りあげる。学生と議論を深め、その結果から研究課題のキーワードを定め、文献検討を行い研究課題を解決する適切な研究方法を見出し研究計画を立案する。臨床研究倫理委員会へ申請・承諾後データ収集を開始する。収集したデータを、研究デザインにそって分析・統合・解釈し、修士論文を作成する。</p> <p>(2 中島 洋子)          地域包括ケアシステムの中における認知症や障害をもつ高齢者と家族に対する支援および老年看護学分野における倫理的課題や健康課題などに関する研究テーマを取り上げる。その研究課題を明確にし、そのテーマに適合した研究方法・分析方法をもとに研究計画を立案し、計画に基づいてデータ収集、分析、結果、考察をまとめ、修士論文として作成する。</p> <p>(3 白田 久美子)          成人臨床看護学におけるがん患者の看護に関する研究をテーマとして取り上げる。身体的侵襲や重要な生体機能に多大な負担のかかる治療を受けるがん患者に対して、健康の再構築に向けてのQuality of Lifeの維持向上を目指した看護支援、特に手術療法を受けたがん患者に対する支援として、急性期・回復期・慢性期・ターミナル期それぞれにおいての支援についても研究課題として取り上げ、そのテーマに適合した研究方法等を用い修士論文として作成指導する。</p> <p>(4 鷹居 樹八子)          基盤看護学領域に包含される看護の概念、看護実践のプロセス、看護技術の概念や教育方法、教材開発、関連職種との思考の比較、看護学実習の展開等を取り上げる。、看護実践力の向上につながる適切な研究課題の設定・研究手法を選択・研究計画書を作成・調査・実験の実施・結果の整理・考察等のプロセスをとって論文作成指導を行う。</p> <p>(5 北原 悦子)          看護基礎教育、看護継続教育など「看護の教育」が関わる場面について、看護専門職者の職業的発達を支援する為の根拠となる研究指導を行う。研究テーマを設定し、適切な研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、新しい知見に基づいて考察し、研究論文を完成させる。</p> <p>(6 黒田 研二)          地域包括ケアシステムに関連する研究課題を設定し、研究計画を立案し、データ収集を行う。収集したデータを適切な分析方法に基づいて解析し、修士論文として作成する。</p> <p>(7 正野 逸子)          地域在宅看護学分野の研究課題を決め、研究計画・立案し、データ収集を行う。収集したデータを適切な分析方法に基づいて解析し、修士論文として作成する。</p> <p>(8 小林 幸恵)          看護基盤学の看護技術に関する研究課題を明確にし、文献検討を行い、研究課題に適合した研究方法・データ分析で研究計画書を作成し、倫理委員会での申請・承認を得てデータ収集を行う。集まったデータを、適切な方法で分析・考察して修士論文を完成させるまでの、一連の研究過程を指導する。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究演習		<p>(10 馬場 才悟) 慢性閉塞性肺疾患、糖尿病に代表される生活習慣病をはじめ、関節リウマチなどの全身性炎症性疾患である慢性疾患を有する患者、家族のQOLの向上と健康増進につながる専門的援助要因を探求し、生活習慣病の早期発見につながる指標を統計学的に考究して論文作成指導を行う。</p> <p>(11 藤田 史恵) 子どもの生活リズム、慢性疾患患児・家族への看護、育児支援等について考究し論文作成指導を行う</p> <p>(12 葛原 誠太) 老年看護学分野、特に急性期医療・認知症ケア等に関する研究課題を明確にし、そのテーマに適合した研究方法・分析方法をもとに研究計画を立案し、計画に基づいてデータ収集、分析、結果、考察をまとめ、修士論文として作成指導をする。</p> <p>(6 平原 直子) 患者とその家族が経験する健康問題及び課題解決を目的とした修士論文作成に向け、指導を行う。研究課題やその解決策を探究するための研究計画を立案し、研究実施に際して倫理的に配慮すべき事項を検討する。データ収集、分析、結果、考察をまとめ、修士論文として作成指導をする。</p> <p>(7 森本 眞寿代) 母子の健康問題と母乳育児に関する支援、周産期のメンタルヘルスにおける親子関係性からの諸問題（産後うつ・子育て期の虐待など）、新生児・乳児期の子どもを持つ母親およびその家族の適応過程における心身の健康問題の支援等について考究し、論文作成指導を行う。</p>	

## 学校法人永原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>西九州大学</b>				<b>西九州大学</b>				
<b>健康栄養学部</b>				<b>健康栄養学部</b>				
健康栄養学科	120	-	480	健康栄養学科	120	-	480	
<b>健康福祉学部</b>				<b>健康福祉学部</b>				
		3年次				3年次		
社会福祉学科	80	10	340	社会福祉学科	80	10	340	
スポーツ健康福祉学科	50	-	200	スポーツ健康福祉学科	50	-	200	
<b>リハビリテーション学部</b>				<b>リハビリテーション学部</b>				
<b>リハビリテーション学科</b>				<b>リハビリテーション学科</b>				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
<b>子ども学部</b>				<b>子ども学部</b>				
		3年次				3年次		
子ども学科	80	10	340	子ども学科	80	10	340	
心理カウンセリング学科	40	-	160	心理カウンセリング学科	40	-	160	
<b>看護学部</b>				<b>看護学部</b>				
看護学科	90	-	360	看護学科	90	-	360	
(計)	540	20	2,200	(計)	540	20	2,200	
<b>西九州大学大学院</b>				<b>西九州大学大学院</b>				
<b>生活支援科学研究科</b>				<b>生活支援科学研究科</b>				
健康栄養学専攻(M)	2	-	4	<u>健康栄養学専攻(M)</u>	2	-	4	専攻名称の変更(届出)
				<u>健康栄養学専攻(D)</u>	2	-	6	課程の変更(認可申請)
地域生活支援学専攻(M)	5	-	10	地域生活支援学専攻(M)	5	-	10	
地域生活支援学専攻(D)	3	-	9	地域生活支援学専攻(D)	3	-	9	
臨床心理学専攻(M)	5	-	10	臨床心理学専攻(M)	5	-	10	
リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	
子ども学専攻(M)	3	-	6	子ども学専攻(M)	3	-	6	
				<u>看護学専攻(M)</u>	5	-	10	専攻の設置(認可申請)
(計)	21		45	(計)	28		61	
<b>西九州大学短期大学部</b>				<b>西九州大学短期大学部</b>				
地域生活支援学科	100	-	200	地域生活支援学科	100	-	200	
幼児保育学科	90	-	180	幼児保育学科	90	-	180	
(計)	190		380	(計)	190		380	